

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社東北銀行（証券コード:8349）

【据置】

長期発行体格付	BBB
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 盛岡市に本店を置く資金量約9,000億円の地方銀行。主要営業基盤とする岩手県における貸出金シェアは1割強を有する。事業性評価に基づく金融・本業支援など中小事業者支援に特化したビジネスモデルを展開し、当行が「成長予備軍」と位置付ける正常先下位～要注意先への取組みに注力している。格付には相対的に良好な資本充実度や収益力などを反映している。公的資金などを除く調整後のコア資本比率を維持していけるかが格付上のポイントである。
- (2) 規模が比較的小さいことなどから経費率が高く、コア業務純益（投信解約益などを除く、以下同じ）ベースのROAは0.2%程度にとどまる。ただしこれはBBBレンジの地域銀行の中では比較的高い水準にある。足元の業績をみると、経費削減や貸出金利息の増加などにより21/3期第3四半期累計のコア業務純益は増益となった。貸出金利息増加の主因は、事業性評価に基づく中小事業者支援を強化していることや、コロナ禍の影響を受けた事業者への資金繰支援に積極的に取り組んでいることなどで中小企業向け貸出金残高が増加したことである。今後も比較的利回りの高い中小企業向け貸出に注力していくことなどにより、当面、現状程度の収益力を維持していくことは可能とJCRはみている。
- (3) 金融再生法開示債権比率は3%強と業界平均を上回る水準にある。また、中小事業者支援の一環として要注意先への貸出に積極的に取り組んでいることなどから、その他要注意先債権が総与信に占める割合もやや高い。一部の地公体向けを除けば貸出金は小口分散されているものの、要注意先の中にはコア業務純益対比で未保全額が大きい貸出先が散見される。与信費用は落ち着いた水準で推移しているが、コロナ禍の影響を含め今後の動向には注意を要する。
- (4) 有価証券運用では、高格付の円建債券を中心とするインカム重視のポートフォリオを構築している。債券の金利リスク量やエクイティ系資産の価格変動リスク量は資本対比で過大ではない。今後、円建債券の償還分の一部を投資信託などに再投資していくものとみられるが、収益拡大のために積極的にリスクテイクしていく方針ではなく、リスク量は管理可能な水準に留まると考えられる。
- (5) 調整後の連結コア資本比率（東日本大震災後に導入した公的資金などを控除）は、20年9月末で6%強と概ね格付に見合った水準にある。中小企業向け貸出や投資信託の増加などでリスクアセットが拡大する可能性があるなか、リスクアセットのコントロールや内部留保の蓄積によりコア資本比率を維持していけるかJCRは注目していく。

（担当）大山 肇・古賀 一平

■格付対象

発行体：株式会社東北銀行

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	BBB	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2021年3月26日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：大山 肇
3. 評価の前提・等級基準：

評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：

本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2014年5月8日)として掲載している。
5. 格付関係者：

(発行体・債務者等) 株式会社東北銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：

本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。

本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。

本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：

JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル